



創立20周年記念 武道場『漱玉館』着工 日本武道の継承、普及・振興へ

公益財団法人伊藤青少年育成奨学会は10月、岐阜県可児市大森字奥洞のパローホールディングス人材開発センター隣接地に、武道場『漱玉館（そうぎょくかん）』の建設に着手する。同事業は、当奨学会創立20周年記念事業として令和元年に計画したもので、令和3年5月の竣工披露を目指している。

岐阜県における武道のうち、剣道、薙刀（なぎなた）、居合道の競技人口はおよそ1万人弱であり、それぞれ警察の剣道場、学校の体育館等を稽古場として利用している。現在、岐阜県内の剣道場施設は約50カ所に及ぶが、利用時間が週一回の1時間半に限定されている施設もあるなど、施設利用の関係で十分に稽古場が確保できていない状況にある。また、小学生の剣道人口が1,934人に対し、高校生が794人に激減しているのも稽古場の問題が大きな要因の1つと考えられる。

そこで、活動の拠点となる武道場を整備し、利用を希望する武道団体、個人等へ幅広く貸与するとともに、独自の主催大会を開催するなどにより、剣道、薙刀及び居合道等の日本武道の継承、普及・振興を図り、ひいては青少年の健全育成や地域社会の健全な発展を促そうというもの。

道場の建設用地（敷地面積約3,500平方メートル）はパローホールディングスから借り受け、ここに木造鉄骨造平屋建、建築面積768.84平方メートル、延床面



積628.95平方メートルで建設。剣道競技場施設基準に準拠する剣道競技場を2面（1面11×11m）設ける他、師範控室、更衣室、シャワー室、トイレ等施設も完備。競技場の床材は厚さ45mmの秋田杉を使用、床下には、競技場の四隅と中央に、1面5個の瓶（かめ）を埋め込み、踏み込む足の音に共鳴させる。瓶は鹿児島島の焼酎醸造メーカーから譲り受けたもので、高さ約90cm、胴回り約70cm、口径約60cm。

武道場の名称である『漱玉館』は、田代理事長の命名で、玉を漱（すす）ぐ意をあらわす。管理・運営は伊藤青少年育成奨学会が、岐阜県剣道連盟常任理事・高石和摩八段（剣道教士、多治見市剣道連盟顧問、名城大学剣道部監督）のグループの協力を得て行う。

なお、コロナ禍のため令和2年度の助成、支援事業を、創立以来初めて休止したが、来年度は奨学金給付、スポーツ・地域振興助成及び地域活性化支援と合わせ、剣道場運営を柱に事業活動を積極的に推進する意向である。

岐阜県内の武道人口（出典 岐阜県剣道連盟）

	小学生以下	中学生	高校生	一般
剣道	1,934名	1,930名	794名	4,310名
薙刀				約650名
居合道				130名

岐阜県内の武道施設 （出典 平成27年度体育・スポーツ施設現況調査）

	小学校	中学校	高等学校	大学等	公共施設	民間施設	計
柔剣道場		86	56	2	22		166
内剣道場							51
空手・合気道場							1
相撲場・屋外	16	4			4		24
相撲場・屋内		2	2	1	3		8
弓道場			21	4	30	1	56

私見日本の美学

『横綱相撲』という言葉がある。強者である横綱は対戦相手のどんな技でも、まずは受けてやる。そののちねじ伏せる。敗者の検討に思いをいたし、平常心をもって結果を受け止める。横綱が張り手で勝ちになぞもつてのほか。ガッツポーズもしかり。

また日本人は謙譲（けんじょう）の美德、惻隱の情をもって譲歩する。しかし西洋諸国を代表とする諸外国は日本の譲歩を日本の常態と理解し、つねに譲歩を要求する。かくして国際的な交渉事は政治面でも経済面でも悉（ことごと）く彼らに負けて来た。彼ら個人を弾劾しているのではない。彼らにとって戦いや交渉事は勝たねば意味がないのだ。それは生存権を争うに似ている。

「オリンピックは参加するのに意義がある」とことさらにいうのは暗示的で

公益財団法人 伊藤青少年育成奨学会 田代 久美子
理事長

ある。かつて常勝日本バレーボールに対して、ブロックなど小柄な日本人に不利なルール変更が行われた。日本のスキージャンプが絶好調の時、スキージャンプの長さの変更で日本人が勝てなくなった。この時現役だった元スキージャンプ複合選手荻原健司は「もっと正々堂々と戦おう」と苦言を呈した。外国人選手の申し訳なさそうな顔を思い出す。

我々には日本人としての美学があるが、彼らには彼らの正義の論理がある。それらの差異に日本人はあまりにも無自覚で、自分を律することばかり考えているが、土俵に上がる前に勝負はついているのだ。が、彼らと同じ土俵に上ることは我々の美学に悖（もと）る。我々の美学を訴えつつ彼らの土俵を俯瞰し、自覚的に勝負も交渉も遂行する必要がある。

お客様視点で

アグリ事業の推進を

中部大学 柳原 優博
応用生物学部 環境生物科学科 卒

拝啓 春暖の候 田代様におかれましては、ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

このたび私は中部大学応用生物学部環境生物科学科を卒業しました。大学生活4年間を振り返りますと、とても充実した毎日でした。3年次の夏休みに参加した学部主催のフィジー語学研修では、1カ月間ホームステイしながらフィジーの語学学校で英語学習と環境問題に関する現場見学とディスカッション、異文化理解を深めることができました。

大学4年次は就職活動や教育実習、教員採用試験の勉強、卒業研究と忙しい1年でした。母校である岐阜県立恵那農業高校で、高校教諭の科目「農業科」の教員免許取得のために、教育実習をさせていただきました。授業準備から本番を迎えるまで、どのように授業を展開したら生徒に教えたことを理解させることができるか、という点にとっても苦労しました。教育実習を終えて改めて、父をはじめとする農業科の先生方の専門性と、工夫され

た授業展開に感心するとともに、教育の現場を見て学び、教師という仕事の大変さを実感しました。

卒業研究では、新規醸造用酵母の探索というテーマで自然界の花や果実から清酒用の酵母の分離を試みる実験を行っていました。

微生物学の研究室ですが、当たり前のように分子生物学が関連してくるため、PCRや見つけた菌体が何かを調べる種同定など、分析機器を使いながら、手で動かし目で見て考える重要性を、研究活動を通じて学ぶことができました。

大学卒業と同時に高等学校教諭一種免許状の科目「農業」・「理科」を取得することができました。卒業に必要な単位に加えて教職課程と、忙しい4年間でしたが無事終了することができましたのも田代様をはじめとする伊藤青少年育成奨学会の皆様のご支援のおかげです。大学4年間ご支援をいただき誠にありがとうございました。

4月1日よりパロールビットタウン店の農産部門に勤務しています。

レジ業務や商品の前出し、補充と基礎基本の業務を行っています。今後、部門に正式に配属となり、部門での業務が中心となっていく予定です。覚えることが沢山ありますが、「お客様に楽しい買い物が出来ると言われる店にせよ」と社訓にあるように、お客様のことを第一に一生懸命頑張ります。そして将来は中部アグリ株式会社に勤務し、農業運営に関わったり、株式会社パロールディングスの本部員としてアグリ事業のさらなる発展に貢献していきたいです。自分の目指すキャリアを意識しながら、伊藤青少年育成奨学会生の名に恥じないように精進してまいります。

最後になりましたが、田代様にとって爽りの多き1年になりますことをお祈り申し上げます。

令和2年4月16日 柳原 優博



就活を通して

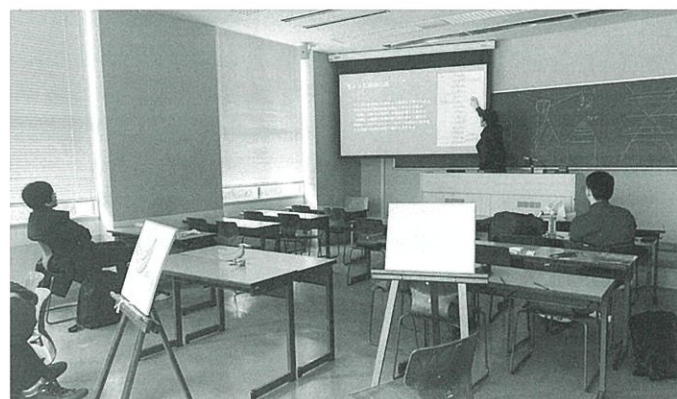
夢は「新薬創出」

岐阜薬科大学 市川 航多
大学院 2年

学業の状況としてはまず1点目に、大学院講義では専門的な内容はもちろんのこと、将来のキャリアについても考えさせられる良い機会になりました。例えば薬効解析学研究室には実際にノバルティスというメガファーマのMSLとして働いていた方がみえます。その先生の講義では、薬効に関する知識はもちろんのこと、年齢が近いこともあり、就活を控えた私たちへ、ためになる話を多くしてくださいました。また、直接お話を伺いに行き、自身のキャリアについて相談に乗っていただきました。このことで、自身の目指す形を見出すことができ、現在の就職活動に繋がっていると考えています。そして2点目に、研究室での研究についてです。学部3年生から同じテーマで研究を続け、終盤に入ってきたということで身を引き締めて、よりよい研究データが出るように注力しました。企業との共同研究であるため、卒業までには最高の結果を出し、上市(じょうし、市販化)ができるようになることが目標です。特に、私の研究では口腔内崩壊錠という錠剤に関する実験であるため、上市することができれば、嚥下(えんげ)が困難な患者様に貢献することができます。残り1年の研究生生活なので、悔いが残らないように毎日を大切に、納得のいく結果を出し、研究室での自身の目標を達成することができるように精進していきたいです。

就職活動について記載させていただきます。私は就職活動を通して、以下2点から自己成長に繋がっていると考えています。1点目に、自己分析や他己分析によって改めて自分自身を見つめ直すことができました。自己分析では、過去の忘れていた経験を振り返ることで、現在の自分に活かすことができました。他己分析では、実際に周りから映る自身の様子を汲み取るこ

とができるため、自身が考えてもいないようなイメージを持たれていることもあり、大変良い経験になりました。2点目に、様々な人との交流で自身の見解を広げることができました。インターンシップによって交流する機会では、初対面同士で意見を交わす状況が多くありました。その際には、周りにはいない考えを持った人が多く、新たな考え方を学び取ることができました。さらには、短い時間で良好な人間関係を築くスキルを身に付けることもできました。以上のように、自身の成長を促進させるきっかけとなっており、貴重な経験と考えています。このように、自己成長に寄与することはもちろんのこと、将来、自身が製薬会社で従事している様子も鮮明にイメージできるようになってきました。残りの就活では、悔いが残らない様に取り組み、「新薬創出」という夢への第一歩を踏み出したいです。



負けてたまるか!!

財団法人伊藤青少年育成奨学会は、コロナウイルスの感染拡大のため、令和2年のスポーツ振興・地域振興支援事業を中止しました。同事業は、奨学金給付と並ぶ基幹事業の一つですが、支援事業の選考会開催が難しく、また、対象事業の実施が危ぶまれたことから、残念ながら断念せざるを得ませんでした。支援中止は、財団発足以来21年間でも初めてのケースとなりました。

奨学生の皆さんも、大学への立ち入り禁止や、オンライン授業、さらには就職活動の停滞など、経験の無い状況下に置かれていますし、冬に向けてまだまだ安心はできませんが、来年度は財団の諸事業が円滑に推進できるよう対応を進めていきます。

夢をつなぎ、明日を切り拓くために、共に頑張りましょう。

自分の時間を有意義に

愛知県立大学 教育福祉部 社会福祉科 1年 馬淵 英恵

5月7日からオンライン授業が始まりました。コロナウイルスの影響で楽しみにしていたキャンパスに実際に行くことはできていませんが、オンラインで大学の授業を感じることができて嬉しく思っています。

4月中は履修登録のための情報収集をしたり、受験が終わったら再開したいと思っていた韓国語の勉強などをしていました。自分の時間が増えたことで、とても有意義な時間を過ごすことができています。私の大学での時間割は1限目から始まることが多いので早起きする習慣もついてきています。いつから大学が始まるかは分かっていますが、その日を楽しみにしながらこれからも過ごしていきたいです。



哲学者たちの主張に感銘

同志社大学 文学部 哲学科 1年 矢島 輝祐

春学期開始から1カ月が経過しましたが、新型コロナウイルス感染拡大の影響により学期末までの授業を全てオンライン上で行うことになったため、実家に一時帰省している状況です。

オンライン授業は5月11日から始まります。慣れない形式で不安もありますが、現在は授業の開始に向けて各科目から出された課題や予習を進めています。特に外国語の2科目については、毎日単語の暗記と発音練習をして、会話力の向上に努めています。

また、哲学科に進学したこともあり、様々な哲学者や政治学者の思想に触れるようにしました。書籍によるものもありますが、最近注目しているのがYouTubeに新型コロナウイルスの蔓延に伴い設置された『感染症時代の哲学』というチャンネルの動画です。フランスを中心に世界中の様々な哲学者からのメッセージが連日掲載されています。中でも、クレール・マランという人の『社会生活で状況によって各々の役割を演じる際に重要な要素は移動と承認で、現在それらが損なわれている為に私たちは同じ場所にいながら異なる役割を果たさねばならない』という主張には感銘を受けました。また、より具体性を帯びた意見を得る為に、Twitterも活用しています。デマも多い為、一定以上のリテラシーは要求されますが、同じ話題に対する様々な考えに簡単に触れることができ、面白いです。

未知のペプチドを求めて

信州大学 農学部 農学生命科学学科 4年 彌永 菜々子

新型コロナウイルスの感染拡大により、大学が立入禁止となって、研究を進めることもできないし、企業の採用活動もあになり、就職活動が長引くことが予想され、不安な状況にあります。

学業では、(昨年)10月から研究室に配属となり、私は食品科学研究室の配属となりました。この研究室では、健康の維持や増進に寄与する機能的食品に関する研究を行います。私のテーマは神経栄養因子の産生を促進させる効果の高いジペプチドの探索です。神経栄養因子とは、脳の栄養となるタンパク質のことであり、脳の神経細胞を新生させたり、発達させたりする働きをもっています。ジペプチドとは、タンパク質を構成するアミノ酸が2つ結合したものであり、様々な食品に含まれています。先行研究において、大豆由来のジペプチドに神経栄養因子の産生を促進させる効果があることが確認されました。神経栄養因子の産生を促進されることで、記憶力や学習能力などの認知機能が改善されることが明らかとなりました。私はその研究を引き継ぎ、さらに神経栄養因子の産生を促進させるジペプチドがないか探索しました。ジペプチドがどのように脳に作用するのかのメカニズムの検討を行っていきます。現段階では、研究を進めていくにあたり必要な実験の手順や技術などの基礎を先輩から教わっています。これから本格的に研究を進めていきますが、失敗を恐れず、きちんと実験に向き合う姿勢を大事にして、より良い研究にしていきたいと思えます。

日本の素晴らしさを再発見

南山大学 人文学部 日本文化学科 3年 森畑 晴登

コロナウイルス対策であらゆる学校が休みとなっていました。その影響で母方の祖父母の家に小学2年生の双子の従姉妹が長期間預けられました。祖父母は年を取っているため心配になり、アルバイトを休み、一週間面倒を見にいきました。祖父母は、「孫が助けに来てくれた」とすごく喜んでくれ、いつもお世話になっている分、役に立つことが出来たので嬉しかったです。このような非常事態であるからこそ、みんなで支え合うことが大切であると実感しました。

今学期では日本文化学科としてのより専門的な授業を受けました。外国人への日本語教育(イントネーションや方言などをどう指導するか)についてや、中世の文学作品研究など、今まで学習したことのない、興味が惹かれるものばかりで楽しく授業を受けることが出来ました。中でも深く印象に残ったのは、平仮名の崩し学です。漢字が平仮名に変わっていく過程を学習し、教材を使いながら、平安時代の作品を読解しました。また、徳川美術館へ実際に赴き、源氏物語絵巻などの国宝作品や崩し字で書かれてある手紙などを鑑賞してきました。どの作品も達筆で風情があり、作品を見ていると心が落ち着く気分になりました。コンピューターや活字印刷もない世界で、人々を魅了させてきた、当時の人の手先の器用さに驚かされました。普通では気づくことのできない日本文化の良さを知ることが出来ました。

シリーズ 第30回

この本をあなたにも薦めたい

伊藤青少年育成奨学会 評議員 田代 正美



『海の都の物語』

著：塩野 七生(しおの ななみ)

発行：2009年5月28日 中央公論社

歴史は人間を学ぶ最良の文献であり、私は読書の楽しさと効用を十分信じている世代である。したがって三段論法でいえば、私にとって良い歴史小説ほど興味深い娯楽はない。

ここではいまや日本語で書かれたイタリアに関する最良文献と目される本のひとつを紹介する。

塩野七生氏の著書では『マキアヴェッリ語録』『ローマ人の物語』(新潮社)等々薦めたいものは多数あるが、『海の都の物語』これは個人主義的西欧で“凡なる二将は非凡なる一将に優る”ということを実証したというヴェネツィア人の物語である。英雄を待望することもなく、凡人が凡人に徹することによって、一千年以上もの国の繁栄を維持した非凡な国。小説としても面白く、世界から俯瞰する日本人論とも読める。読者によって様変わりする底の深い著作である。

皆さんが読みたくなるよう、その中のエピソードのひとつを、やはり塩野七生著『サイレント・マイノリティー』(新潮社)から孫引き要約する。ヴェネツィアの面目躍如たる部分である。

十五世紀初めヴェネツィア共和国にカルロ・ゼンという男がいた。貴族だったが親がさほど資産を残さなかったため、僧になった。背高く陽気な美男。素行成績芳しくなく、賭博の借金返済のため傭兵となって消息不明。その五年後、ヴェネツィア人とジェノヴァ人の戦闘の最中に、ひょっこりカルロ・ゼンが志願兵として姿を現した。瞬く間に頭角を現し、その後も何度も戦果をあげ、総司令官、大使まで務め、元首に次ぐ聖マルコ監督官になって、いつ元首に選出されても不思議ではなくなった。

そんな折、六十歳になったカルロ・ゼンが収賄容疑で逮捕される。ゼンは釈明したが、その証人たるべき人物は既に死んでいる。裁判の委員全員がゼンの部下として苦楽を共にした人々だ。ゼンを汚職の疑いだけで葬り去れるか。しかし、ひとりの委員が発言した。

「ゼンほどの人間を葬り去る決定に迷うのは当然だ。が、忘れないでほしい。人材というものは、これ以後生まれられないのではないかと怖れれば実際に生まれられないものであり、反対にそのような心配にわずらわされず断固とした処置を執行する国では生まれてくるものである」

ゼンに二年の実刑と永久公職剥奪。その後の共和国はゼンほど華やかでないにしても、彼に優るとも劣らぬ人材に恵まれる何百年かを享受する。

良書を選ぶコツは、通勤電車にも枕元にも書斎にも似合う本を選ぶことである。

「イスラームと現代社会」に触れて

慶応義塾大学 環境情報学部 環境情報学科 2年生
西村 操太郎ウイリアム

今年度はCOVID-19の感染拡大による自粛ムードに伴い大学がオンライン授業となりました。そのため、普段の1人暮らしの下宿先から実家に戻り、実家からオンラインで授業を受けています。新しい授業環境に少しずつ慣れながら勉強を続けております。

今学期、興味のある授業は「イスラームと現代社会」という授業です。イスラム教の教えの基本についての知識を広げ、社会と結びつけて考える機会が提供されます。私は今までイスラームと聞くと、砂漠や戦争や荒れた街という偏ったイメージしかありませんでした。実際、イスラームを信教している

人は世界中に散在しており、世界の人口の4分の1弱もの割合を占めていて、近い将来は3分の1になるとも予想されています。その様な状況の中で、地球に住む住人の一員としてイスラームについて最低限の理解があることは義務であり、また、無宗教というものが世界基準ではないことを理解することが、多文化理解に繋がると考え、この授業を履修しました。

ここでは、異国の文化を異質なもの、不気味なものとして規定する西洋の思想様式である「オリエンタリズム」の概念に触れ、イスラームに対する偏見の生まれ方について考えさせられました。これから更に深く学んでいく所存です。

農場と環境の2つのサークルで活動

岐阜大学 応用生物科学部 生産環境科学学科 3年生
福田 稜人

私は現在、主に農場サークルと環境サークル『G-amet』で活動をしています。農場サークルでは、毎週水曜日の午後には岐阜大学付属の農場を利用させてもらい、農業や畜産に関わる様々な体験をしています。そして、環境サークル『G-amet』は岐阜大学内及びその周辺環境保全を目的としているサークルです。私はその中の生物保全部門の活動に2年生の途中から携わり、3年生から正式にサークルの一員として参加しています。この生物保全部門では、岐阜大学内にある翻ケ池及びそれに通ずる水路や河川(新堀川)を対象にして、自然再生プロジェクトを始めようとしています。現在までは、始めるための事前調査やそれに合わせた方針決定のための話し合いを何度も行ってきました。

この事前調査では、生き物調査と水質調査の2つに分かれており、生き物

調査はデータを多くとるためできる限りの日数、水質調査は分析機器の利用状況に対応して2カ月に1回は必ず行うようにしています。私が特に力を入れていたのは生き物調査です。生き物調査は、クモ網を使って直接的に獲るものと、かご網を使って間接的に獲るもの2つで行われており、在来種・外来種を含めた多種多様な生物が確認されています。私はこの調査を通して、生物と生物又は、生物と環境の相互作用をよく知ることができたと感じています。また、生物の固定能力が向上しているとも感じています。とはいえ、まだまだ客観的に見たら、知識量が少なく未熟であるため、プロジェクトを成功させるための一歩として、多くの生物や環境を見て、学んでいきたいと思っております。

今は、コロナウイルスの影響で一時的に休止してしまっていますが、収束しないうちにでも活動に取り組みたいと考えています。



公益財団法人
伊藤青少年育成奨学会

〒507-0062 岐阜県多治見市大針町661番地の1
株式会社パローホールディングス本社内
※Eメールアドレス、電話番号はホームページでご確認ください。
<https://www.ito-zaidan.or.jp>



発行 公益財団法人
伊藤青少年育成奨学会
印刷 新日本印刷株式会社